たちばな新聞

水谷山寶清寺
たちばな会館

明けましておめでとうございます

新しい年が皆様にとって幸多い年になることを祈念しております。

新しい年を迎え、気持ちを新たにされた方が多いことと思います。

昨年のお盆の法話で、二十世紀前半は戦争の時代、後半は経済の時代であり、二十一世紀は精神が求められる時代と、大きな枠組みの中で、「知足安分」が大切だと話しました。お会式では混乱した世の中に対処する個人としての心構えについて具体的な例を交えて法話を行いました。

年頭に当たり、お会式で行った住職の法話を紹介し、新たな年の参考にして頂ければと思います。

利衰毀誉称譏苦楽

日蓮聖人遺訓　第四十回

『僻事は一人なれども万国のわづらいなり』

（本尊問答抄）

ご遺文の解説は、下記、「住職のひと口法話」に引用して解説致します。

※上記色紙は、住職が法話のため揮毫したものです。

住職ひと口法話　第四十回

昨年、テレビで、最近のママ友のコミュニティには「ママカースト」と呼ばれる格付けがなされ、"格差社会"が出来上がっていると知って驚いた。カーストを決める要素は夫の職業や収入から、子供のルックスや学力まで、多種多様に分かれているが、概ね、子供の出来は悪くても、高収入で良い家に住んでいるセレブとそれを取り巻くママ友が主導権を握っていて、その事が子供にも影響を与えているらしい。そこで語られる、妬み嫉みから発せられる『一言』が、事実をゆがめ、大勢の人を傷つけている。**二十世紀後半の経済中心の社会的推移に依る弊害で有り、ママ友間の傾向だけではなく、社会全般に見られる傾向であり、慎みたい『一言』だと思う。**

『一言』と言えば、パキスタンで昨年十月、女子が教育を受ける権利を訴えて、タリバンの銃撃を乗り越えてマララさん（十六歳）が、ニューヨークの国連本部で演説し、「すべての子供に教育を受ける権利の実現を」と訴えた。演説の最後に**「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、一本のペンでも世界は変えられる」と、若干十六歳の少女の命を掛けた『一言』に世界中が感動した事は、今も記憶に残っている事でしょう。**

我々が発する言葉の『一言』には、その言葉が及ぼす責任の範囲があり、そのことを自覚しない不用意な『一言』の悪影響は大きいと思います。日蓮聖人は、（本尊問答抄）に『僻事は一人なれども万国のわづらいなり』と述べています。僻事とは、道理や事実を曲げる言動の過ちの事です。一人の過ちは、本人に止まらず周囲に影響を及ぼします。善もまた同じように、周囲に広がります。どんなに小さな善であっても積み重ねの努力が、周囲を和ませ、人を育て、やがて、安穏な社会を開いていくのではないでしょうか。

法話で、日蓮聖人が四条金吾公からの供養の品々と書状に対する**四条金吾殿御返事の一文に、「八つの風におかされぬを賢人と申すなり」とあり、人の心を動揺させるものに、「利・衰・毀・誉・称・譏・苦・楽」の八つあると、風に譬えて示されたご遺文**を紹介し、その八文字を揮毫した色紙をかざしながら解説致しました。

八つの文字の大旨は

利（うるおい）― 利益あることを喜ばない。
衰（おとろえ）― 衰えを嘆かない。
毀（やぶれ）― 傷ついても挫（くじ）けない。
誉（ほまれ）― よい評判におごらない。
称（たたえ）― 褒め称えられても自惚（うぬぼ）れない。
譏（そしり）― 譏りを受けても怯（ひる）まない。
苦（くるしみ）― 苦しみに負けない。
楽（たのしみ）― 楽しみを喜ばない。

と言う意味です。

我々は、嬉しいことがあれば有頂天になり、自分自身を失い、悲しいことがあれば悲しみのあまり、自分自身を失いがちです。

「順（じゅんきょう）境の風が吹いても、逆（ぎゃっきょう）境の風が吹いても、己を失わず、平常心を保てる人が賢人だ。」と諭されたお言葉です。

四条金吾公は実直至誠の人柄だったようで、それが時に、主君から誤解されたり、同輩から妬まれたりしました。日蓮聖人は、歴史的事例や身近な事柄を示され、**譬え誤解や妬みが有ろうとも、「八つの風」に惑わされることなく、美しい心を持ち、正しく祈れば、状況は必ず好転すると諭されたのです。**

当山本堂に、「十界の心」の解説が掲示してあります。人間は、**地獄**（いかり）、**餓鬼**（むさぼり）、**畜生**（おろか）、**修羅**（へつらい）、**人間**（平正）、**天上**（よろこび）の**六道（六つの心）**を輪廻（繰り返し）して生きている。**その中で、「人間」は、（平正で、穏やかな心）の状態を言うと位置づけています。**喜びと悲しみで感情が高ぶった状態では正しい心持ちにはなれません。

つまり、賢人とは、どんな時でも平常心を保ち、人として慎み深く、他人を敬う事のできる美しい心の持ち主のことです。諸天善神は、このような人の心に住まわれ、その人を守護して下さるのではないでしょうか。今年こそ、心掛けたいものです。

!? 仏事Q&A　第十二回

葬儀に関するQ&Aは平成二十六年三月一日号から連載しており、三十項目掲載致します。今回で、三回目になります。

Q、⑫「不幸を葬儀後に知った場合はどのように対応したら良いですか。」

A、知った時点で連絡し、都合を確認してご自宅へお悔やみに行く。直接連絡してこなかった場合は、お香典を同封して、手紙を出す程度にとどめても良い。四十九日忌を過ぎている場合は、一周忌などの節目に、花や線香を送り弔意を示すと良い。

Q、⑬「献花の花は何が良いですか。」

A、不幸には白い花というのが定番ですが、故人が好んだ花なら白以外でも問題はないようです。一般的には、菊、百合、ガーベラ、フリージアの白が基本です。

Q、⑭ 映画「おくりびと」で一般に広く知られるようになった納棺師という職業について、また、葬儀社やセレモニーホールでも納棺の儀式はしてくれるのですか。

A、納棺師の会社があり、各葬儀社に問い合わせれば、儀式ができるかどうか教えてくれます。内容は身体を拭くことからはじまり、白装束、または、葬家が用意した服装に着替えさせ、洗髪の他、男性には髭剃り、女性には化粧をしてくれます。

Q、⑮「家族が亡くなった場合、一年間は神社の鳥居をくぐってはいけないのはなぜですか。」

A、神社に参拝する際に、亡くなった家族の「死」に気持ちや考えが注がれる状態では、気が枯れていると考えられ「気枯れる」から「穢（けが）れる」という発想につながると言われています。つまり、神道では、「死」を「穢れ」とみなすことから、気のない時には鳥居をくぐらないという意味のようです。

日蓮聖人伝　第四話

「鎌倉御遊学」

前号で書きました通り、日蓮聖人の遊学の目的は、疑問に対する解答を得るためでありました。

建治二年（一二七六）日蓮聖人五十五歳の時に身延で著作された『報恩抄』によると「仏法をうかがいし程に、一代聖教をさとるべき明鏡十あり。所謂（いわゆる）倶舎（くしゃ）、成実（じょうじつ）、律宗、法相（ほっそう）、三論（さんろん）、真言、華厳、浄土、禅宗、天台法華宗なり。この十宗を明師として一切経の心をしるべし」と記されています。

当時、政治の中心地であった鎌倉には、宗教家も多く、各宗派が林立していたので、疑問の探求には都合の良い場所だったのでしょう。

しかし、現代と違い車や電車などの交通手段が無かった鎌倉時代は、清澄寺から鎌倉までの直線距離で約五十キロ、その道程は容易ではなかったことでしょう。

二度目の鎌倉御遊学の事も思われます。

足取りを見てみると、房総半島西岸の南無谷から東京湾を渡り、横須賀の龍本寺付近に上陸したようです。

この寺には面白い言い伝えがあり、聖人を乗せた舟が波浪により舟底に穴が開いてしまいました。

聖人は、二十一歳の時に清澄で『戒体即身成仏義』を著作されておりまして舟底を見ると、アワビが底についており、その澄に戻られて居ますので、鎌倉遊学は最長でも約四年間だったのでしょう。

識者の意見によりますと、『戒体即身成仏義』は特別に思想の変化は見いだされないということですので、今回の遊学により疑問の氷解には至らず、再び遊学の旅に出発される契機となったのでしょう。

この歌は古今集に収められているものです。

君とは天皇のことでしょうか。雪が袖に積もりながらも七草を摘んでさしあげるとは、なんと孝行な方でしょう。

七草に関しては以前にも書きましたが、今回はホトケノザに注目してお話しをいたします。

春の七草で言われるホトケノザ（仏の座）は、コオニタビラコ（小鬼田平子）とも呼ばれ、湿地や田んぼなど水分を多く含むところに生息し、タンポポのような葉に、黄色い花をつけます。

また、仏の座の名称をもつ花で、三界草があり、こちらは紫の花が葉っぱの上に座っている姿から、つけられた名称のようです。前者は菊科に属し、後者は紫蘇科に属します。

多く見かけるのも後者のほうでしょう。

仏の座の名称はロゼット葉から由来される名称で、バラの花の型をした葉であることから、タンポポなど、葉が地面に広がるものをロゼット葉と言うそうです。

仏様も蓮台にお座りになっており、この形がロゼット葉のようなことから来たのでしょう。

宝清寺では、三界草が多く見られますが、探してみると、田平子もみつけることができます。

三界草

田平子

管理料のご案内

お檀家皆様におかれましては、二通りの方法がございますのであわせてご案内させていただきます。

一、管理料をご持参頂く場合

ご持参頂く場合は、翌年度分（平成二十六年四月一日より平成二十七年三月末日分）墓苑管理料の納入がまだお済みでない方、管理料納入をお忘れの方にご案内申し上げます。

墓苑管理料は墓苑共有区域である通路、休憩所、駐車場や水場等の管理費として使用させて頂いて月一日から平成二十七年三月末日分）となっておりますので、ご理解の三月末日までに納付いただく前納制となっております。

今年三月末日までに納められた分は平成二十六年度分（平成二十六年四月一日から平成二十七年三月末日分）となっておりますのでご利用ください。

振替日は毎年四月二十五日前後を予定しております。

二、自動振替をご利用の場合

自動振替を利用される場合は、「ゆうちょ銀行」の口座が必要です。口座をお持ちでない方は開設していただく必要があります。

また、所定の用紙に記入され、「ゆうちょ銀行」に提出して頂くだけで簡単に手続きが済み、毎年自動的に引き落としされますので、遠方の方には便利です。申込用紙は当寺で用意してありますのでご利用ください。

なお、ご入金方法に関しましては、ご先祖様供養ご喜徳に存じます。

昨年中に平成二十六年度分（平成二十六年四月一日より平成二十七年三月末日分）墓苑管理料の納入がまだお済みでない方、管理料納入をお忘れの方にご案内申し上げます。

墓苑管理料は墓苑共有区域である通路、休憩所、駐車場や水場等の管理費として使用させて頂いて月一日から平成二十七年三月末日分）墓苑管理料の納入がまだお済みでない方、管理料納入をお忘れの方にご案内申し上げます。

宝清寺の草花

「君がため　春の野に出て　若菜つむ　我が衣手に　雪は降りつつ」

（光孝天皇）

編集後記

地球の温暖化はとどまるところを知らず、このままの状態で進めば三十年後には海面水位が八十センチ以上あがると言われている。

毎年の夏の暑さや降水量の増大にともなう被害も甚大であり、去年、都内で降った大雪は記憶に新しいことだろう。温暖化に対する対応も各国の思惑が絡み、解決への進行を押さえるところが困難さを助長させているのが現状のようだ。

また、フィリピンなど南方でみられる、デング熱が日本で発生し、海外では工ボラ出血熱など、身近に感じられなかった病気が、日本にも渡来する可能性を示唆した。

国内外での政治や経済もまた不安定要因が多く、依然として、戦争や内戦はどこかの国や地域で繰り返されている。このような世界情勢のなかで我々は、あきらめる力を養わなければならない。「諦める」とは、逃げるという意味ではなく、「明らかに見る」ということである。明らかに事象を観察し、自己の心を安定に保ち、できうる限りの最善を尽くすことが、「あきらめる力」の事なのです。

日蓮宗の聖日

三月彼岸中日	悠久供養
四月八日	花祭り
七月十七日	盂蘭盆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	悠久供養
十月十二日	お会式法要

年間の年中行事

二月十五日	釈尊涅槃会
二月十六日	宗祖降誕会
四月八日	釈尊降誕会
四月二十八日	立教開宗会
五月十二日	伊豆法難会
五月十七日	身延御入山
七月八日	本尊始顕会
八月十七日	松葉谷法難会
九月十二日	龍ノ口法難会
九月十八日	池上御入山
十月十三日	宗祖御会式
十月十二日	小松原法難会

年間の年中行事

交通安全	商売繁盛
虫封じ	方除
開運祈願	安産祈願

宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

発行・日蓮宗水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・〇四二一五五八一二六六三
FAX・〇四二一五五八一二六九三
インターネットホームページ
http://www.ebauone-net.jp/housei/
メールアドレス
housei@ac.auone-net.jp